

# 浄土

monthly  
JODO

令和4年

通巻969号

2022

December

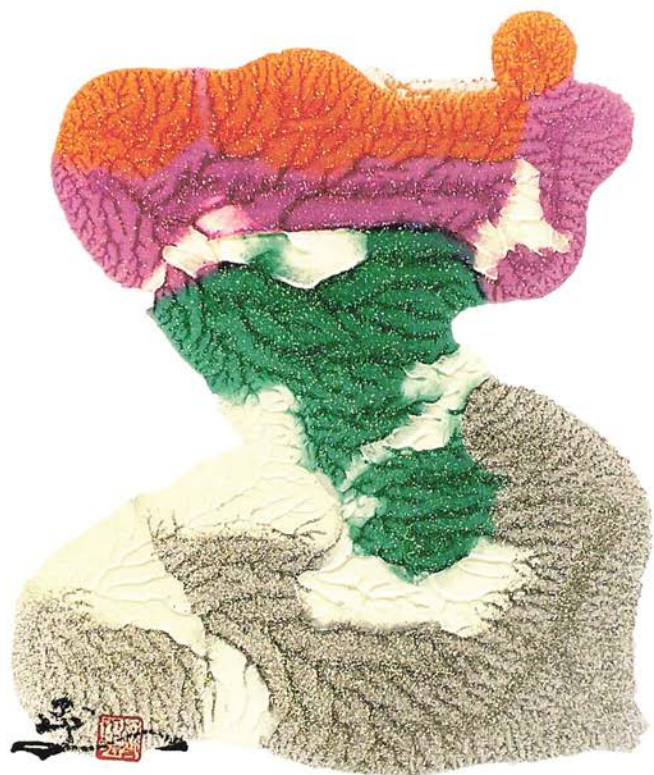
vol.88

no.969

# 12

新連載筆者に聞く

いま知っておきたい「浄土宗近現代史」 吉田淳雄



浄土アーカイブ

法然上人と経済思想 友松圓諦

お寺のC I O

そのアプリは誰のためのもの 小路竜嗣

# 浄土

2022/12月号 目次

《新連載筆者に聞く》

いま知っておきたい「浄土宗近現代史」.....	吉田淳雄	2
法然上人の言葉⑧ 石に水をかける .....	阿満利磨	10
寺々刻々②⑥ この国のムスリム土葬墓.....	鶴飼秀徳	14
林海庵・開教奮闘記 「お念仏の会」を開催する ...	笠原泰淳	18
漫画「浄土宗のお祖師様」三祖良忠上人⑩ .....	ぐんじまん	23
あなたもお寺のCIO ⑨ そのアプリは誰のためのもの...	小路竜嗣	26
微風吹動 師走の海 .....	石田一裕	30
江戸 日本の街道探訪 第20回 日光街道3 .....	森 清鑑	34
みんなの境内 新刊・『浄土宗年表ハンドブック』.....	工藤大樹	41
浄土アーカイブ 法然上人の経済思想 .....	友松圓諦	42
みんなの境内 「インド・釈尊あれこれ紀行」に寄せて...	村田洋一	47
編集後記 .....		48
表2 古物漂流② .....	三宅政吉	



表紙題字＝中村康隆元浄土門主  
表紙絵＝清岸寺第四十四世 原口正弘  
アートディレクション＝近藤十四郎

5

# 浄土宗寺院として 「お念仏の会」を開催する

# 開教奮闘記

林海庵開山上人

## 笠原泰淳



かさはら たいじゅん

昭和三十三年東京生まれ。慶応大学経済学部卒。日本通運（株）に入社、八年勤務し浄土宗東京教区貞源寺の故藤木芳清師に師事。佛教大学に学び、浄土宗僧階取得。東京教区心光院に約十年勤務。平成十四年「林海庵」設立、翌年林海庵が浄土宗寺院に承認され住職となる。現在、浄土宗開教振興協会副理事長。

念仏会の話に戻ろう。

「一般の人でも参加できる念仏会をやっているお寺を知りませんか。」

このような質問を頂き、いくつかのご寺院や友人に尋ねてみた。だが、なかなか見つからない。たとえ念仏会をやっている、対象をその寺の檀信徒に限っているご寺院がほとんどだった。

ある方が「京都の百万遍知恩寺で二十四時間の不断念仏会をやっているはず」と教えて下さったので、質問者にそう答えた。一ヶ月くらいあつたろうか、返事があつた。

「先日京都まで行って百万遍さんの不断念仏会に参加してきました。とても良かったです。」

とのこと。ひと安心だ。だが、どうして念仏会をやっているお寺が少ないのか。誰でも参加できる坐禅会を行なっている禅寺はたくさんあるというのに……。よしそれなら、林海庵で始めてみよう。こうして第一回の念仏会を行なった。平成十五年

の十月であった。

林海庵はその年の夏に正式の浄土宗寺院として認証を受けたばかり。それからまだ二ヶ月のヨチヨチ歩きの寺であった。念仏会の名称はそのまま「お念仏の会」(のちに「楽しいお念仏の会」とする)として開催。初回のご出席は十三名であった。嬉しいことに、先の質問者も参加して下さった。

会の内容は、法話と日常勤行。おつとめには一尊哀愍、四誓偈、一枚起請文を含む。念仏一会の時間を十〜十五分ほどとる。勤行はお経本を配って皆さんと唱和する。この形は通算二百回を超えた現在も同じである。

ご承知の方も多いと思うが、浄土宗の日常勤行は非常に優れている。他宗の檀信徒向けのおつとめも見てみたことがあるが、浄土宗のものは群を抜いている。私はいかにこの『おつとめ』が素晴らしい構成されているか、またいかに教えのエッセンスがちりばめられているかを少しずつ檀信徒

に伝えるようにしている。そんなことは百も承知、  
と思う方もおられるだろうが、改めて見てみよう。

・全体が序・正宗・流通の三分から成り、各々の  
機能が明確である

・念仏一会がクライマックスに来るように構成さ  
れている

・五種正行が盛り込まれている

・阿弥陀仏（法蔵菩薩）のお誓いが示されている

（我建超世願）

・釈尊が念仏往生を勧めておられる

（念仏衆生 摂取不捨）

・善導大師も念仏往生を勧めておられる

（唯有念仏蒙光摂 当知本願最為強）

（願共諸衆生 往生安樂國）

・諸仏証誠が示されている

（六方如来舒舌証 専称名号至西方）

・往生した後、どうなるかが示されている

（到彼華開闡妙法 十地願行自然彰）

・法然上人の結論が示されている

（智者のふるまいをせずしてただ一向に念仏す  
べし）

・これらの尊い教えに示されているお念仏を、共  
に実践する（念仏一会）

さらに、

・焼香しながら誦える偈文では、威儀と偈文の内  
容が一致する（香偈、送仏偈）

・回向による先祖供養あるいは回向発願が含まれ  
ている

など、挙げてゆくときりがない。

このように構成や内容が際立っていると同時に、  
浄土宗の勤行の素晴らしさは読経の声、音声にあ  
るとも言えよう。これは多くの檀信徒が口を揃え  
て言うことだ。

「浄土宗のお経はゆったりしていて、やさしい感  
じがする。とてもありがたい。」

「お経の声が、毛穴から身体に入ってくる。」



のちに「楽しいお念仏の会」となる「お念仏の会」。平成15年10月

「お念仏のリズムが心地よい。」

毛穴から入る、というのはまた強烈な表現だが、確かにそういうところはあるだろう。味わいとしては、勤行の構成や偈文の意味に立ち入りすぎると、たゞ読経・念仏の心地よさにひたる方が、良いのかもしれない。

ともあれ、日常勤行は浄土宗の宝物のひとつだ  
と思う。

八年前から、インターネットを通じて海外向けに開教活動を行なっている。（これについては改めて詳しくお伝えしたい。）三年前には、海外の道友と日常勤行をともにする場を作ろうとした。浄土宗の要はお念仏の実践だ。その教えを紹介するだけでなく、日常勤行をともに行ないたい、林海庵のお念仏の会と同じような場を海外の道友と持ちたい——このように思った。

初めに迷ったのは、英語訳の勤行にするべきかどうか、ということだった。海外の開教区では、

おつとめの英訳もなされている。だが実際には国内と同じように「がーんがーしーんじょー」というおつとめが多くなされているようだ。意味の理解よりも、ありがたさの感覚を優先しているのだと思う。もつともである。偈文などの意味を説明するのは別の場で行い、おつとめの時間は読経念仏の声にひたる。その方が良いであろう。こうして海外の道友とも、国内の檀信徒と唱和するのと同じ内容のおつとめを行なうことにした。コロナ禍ですっかり広まったZoomというインターネット会議システムを利用して。アメリカ、ヨーロッパの方々が共に参加できる時間帯にということで、日本時間で日曜日の夜十二時（月一回）から行っていた。欧米の週末に合わせるためにこの時間にしたのだが、私の方は週末の法務のあとの時間でかなり無理があった。身体にこたえるのだ。そこで、今は月二回に分けて月曜日の朝八時と日曜日の午後五時に行なうようにした。参加者

はさほど多くはないが、熱心な方々が楽しみにして下さっている。

ずつと書いてきたように、浄土宗の日常修行は誠に素晴らしい。それを海外の方々に紹介したい。さらには日常修行をマスターした人の中から、浄土宗の教師（あるいは助教師）を目指す人が出てきて欲しい。そして現地の言葉で布教活動を行って欲しい。これが私の願いである。

「わが遺跡は諸州に遍満すべし。」（勅伝巻三十七）これは真実のお言葉だと思う。お念仏の教えと実践は、民族や国・文化・歴史を越えた普遍性をもっている。これだけ情報化が進んだ時代に布教の対象として海外に目を向けないならば、我々は宗祖の遺弟として失格ではなかるうか。

日常修行―その土台はすでに先人が整えてくれている。  
(つづく)